

# 連珠っておもしろい

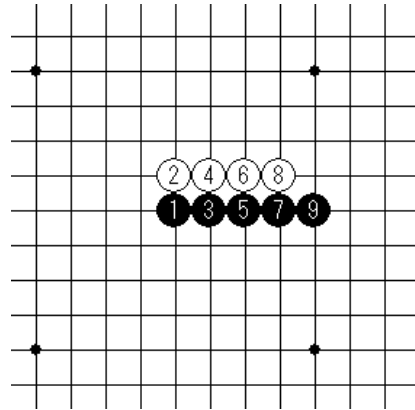
## 九段 河村典彦

● 第116回

### ■初心者指導の難しさ

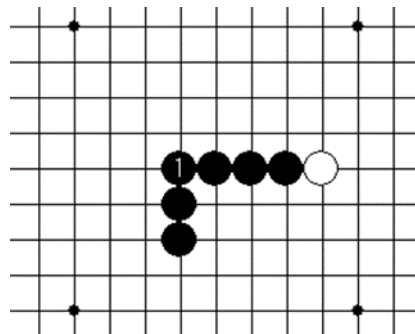
先日、千木良さんから要請で、八王子のとある小学校のサタデースクールに参加した。小学校のイベントで、スーパードゲームなどいろいろ楽しい仕掛けがあり、児童が各教室を巡ってスタンプラリーを行うというものだ。その一つに連珠があり、数名の児童と保護者が不定期にやってくる、という仕掛けである。まずは席についてもらって説明するのだが、「五目並べ、って知ってる？」と聞くと、たいがい「知らない」と返ってくる。あくそういう時代になつたか、と嘆いても仕方がないが、ルールを教えるのがまず一苦労であつた。こういう時にはまず、保護

者に教えるのが良い。保護者の方も五目並べを知らない方が多いので、まずは基本ルールの説明から。

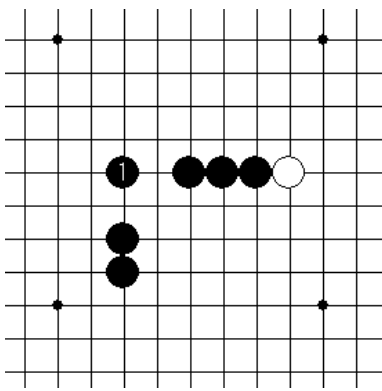


黒石と白石があり、交点に交互に打って先に五が並んだら勝ち、ということ伝えて後、このように一直線で並べたら黒が簡単に勝つ、ということをまずは説明する。(ここでわかってもらえないなら問題なのだ)次に、じゃあこれを防ぐには白は相手が四になつた時では遅く、三ができた時に防ぐ必要がある、ということを次に言う。

じゃあどうやって勝つかというと、四と三が一緒にできる「四三」を作れば良い、ということの説明する。



この時に、トビ四やトビ三も四や三であることを同時に説明するために、次の



図のようにトビ四とトビ三が重なった場所も四三で勝てるということに合わせて説明しておく。保護者の方はこちらまでの説明で理解していただけの場合が多い。じゃあお子さんと一局やってみましょうと石を渡して親子でやってくればこつちも助かる。とにかく次から次へと子供がやってくるので、下手に手を取られると新規の子供への説明ができなくなる。なので、子供同士でもここまでの説明をして、まずは一局やってもらおう。勝負がついたら黒白を入れ替えてもう一局行う。そのうちに、何局もやってくれる子供(あるいは親子)とすぐに飽きてしまう子供と分かれてくる。結構何局もやってくる子供が出てくるのだが、対戦相手がいなくなる場合もある。そういう場合は、千木良さんが準備していた「ドリル」なるものをやっ

